

短命県返上の道は  
産学官で意見交換

弘大COIサミット

弘前大学と県、弘前市は31日、「弘前大学COIヘルシーエイジング・イノベーションサミット2020」を同市のアートホテル弘前シティで開き、全国や地元の産学官関係者、市民ら約500人が短命県返上や健康寿命延伸について、講演やパネルディスカッションを通じて考えた。

COI(センター・オープンイノベーション)は2013年に始まった文部科学省の大型研究開発プロジェクト。弘大COIは弘前市岩木地区の住民を対象に05年度から継続して行っている健診のビッグデータを活用した健康増進モデル事業に取り組んでおり、昨年、日本オープンイノベーション大賞総理大臣賞を受賞し



弘大COIの概要について講演する中路特任教授

ている。  
同大の佐藤敬学長が「こつ。たしていききたい」とあいさ

のプロジェクトも残りあと2年で総括の時期に入ったが、事業が終わっても課題に対し、しっかり役割を果

同大COI拠点長・研究統括で大学院医学研究科の中路重之特任教授は、弘大COIの概要について説明しながら「データが医療に活用されて初めて産学官民すべてにとって本当のプラットフォームと言えるようになる。2年の間に、なんとんでも手を付ける」と強調。「データをハブとして、人と人とで結びつき汗

をかきながら、本県の短命県返上実現だけでなく、そこから出た答えの方程式を全国、世界に持っていきたい」と決意をにじませ、支援を呼び掛けた。  
パネルディスカッションでは「人生100年時代の健康未来を考える」と題して、各分野の関係者たちが意見を交わした。

(外崎英明)